

平成28年度
入学試験問題

国 語

2月1日 午前

受験番号	氏 名

中村中学校

□ 次の(1)～(10)の——線のカタカナを漢字になおして答えなさい。

- (1) 塩分をカゲンして料理を作る。
- (2) 健康カンリに注意する。
- (3) 古い写真をフクシャする。
- (4) 感謝の手紙をユウソウする。
- (5) 私がイトしたとおりになった。
- (6) 夕食後にフンマツの葉を飲む。
- (7) 生命のヒミツをさぐる。
- (8) 町が観光地としてサカえる。
- (9) 上体を大きくソらす。
- (10) 水がイキオいよく流れる。

〔二〕 次の文章を読み、後の問いに答えなさい。(設問の都合上、本文を改変、省略した部分があります)

文を改変、省略した部分があります)

*字数制限のある問題については、句読点・記号も字数に数えます。

次の文を読んでみてください。

彼は練習が大切だと、ずっと思ってきた。努力だけで成功できるわけではないし、天性の力も必要かもしれない。しかし、今の位置を保つには、努力は必要()可欠である。

彼はすっかり手になじんだものを取り出した。それは、単なる道具ではなく、彼にとって分身のようなものだった。ゆるやかな曲線、しっかり張られた糸。これがデビューしてから、彼をずっと支えてきたのだ。

1

5

(A) 読めない字や知らない単語の意味はないでしょう。でも何をいつているのかよくわからない、変な文章だと思った人もいます。なぜよくわからないと感じたのでしょうか。文中の「彼」についてだらう、「手になじんだもの」「ゆるやかな曲線、しっかり張られた糸をもつこれ」とは何のことだろうと思ったのではないのでしょうか。それはこの文章で何が話題にされているのか、この文章だけではわからないからです。文章を読むときには文字や単語個々の

10

意味がわかることはとても大切ですが、それだけでわかるとは限らないのです。あ

ところが読むのが苦手な人に限って、わかりやすい文章というと、むずかしい漢字や知らない単語がないことや、字が大きい、活字が少ない、文や文章全体が短いといった形式的なことをすぐ思い浮かべるようです。でも、それだけで文章がわかりやすくなるわけではないのです。

「手になじんだもの」はギターとかバイオリンとか楽器ではないかと想像した人もいます。また、テニスやバドミントンなど、ラケットのことだと思った人もいます。このように文中に書かれていないことを想像することを心理学では推論とよびます。推論できた人はこの文章がわかったと思ったでしょう。また推論できずに読んだ人は、よくわからないと感じたままでしょう。なかには、「なんでこんなわかりにくい文章を読まなければいけないの?」と思った人もいます。あ

「文章がわかる」とはどのような心のしくみによるのかを考えてもらうために、わかりにくいこの文章を(B)読む体験をしていただきました。これは西林克彦さんという教育心理学者が作成した文章を筆者が一部修正して紹介させてもらったものです。西林さんは、この文章を大学生に読んでもらうときに半数の人には

意味がわかることはとても大切ですが、それだけでわかるとは限らないのです。あ

ところが読むのが苦手な人に限って、わかりやすい文章というと、むずかしい漢字や知らない単語がないことや、字が大きい、活字が少ない、文や文章全体が短いといった形式的なことをすぐ思い浮かべるようです。でも、それだけで文章がわかりやすくなるわけではないのです。

「手になじんだもの」はギターとかバイオリンとか楽器ではないかと想像した人もいます。また、テニスやバドミントンなど、ラケットのことだと思った人もいます。このように文中に書かれていないことを想像することを心理学では推論とよびます。推論できた人はこの文章がわかったと思ったでしょう。また推論できずに読んだ人は、よくわからないと感じたままでしょう。なかには、「なんでこんなわかりにくい文章を読まなければいけないの?」

と思った人もいます。あ

「文章がわかる」とはどのような心のしくみによるのかを考えてもらうために、わかりにくいこの文章を(B)読む体験をしていただきました。これは西林克彦さんという教育心理学者が作成した文章を筆者が一部修正して紹介させてもらったものです。西林さんは、この文章を大学生に読んでもらうときに半数の人には

「ウィンブルドン」という題を与え、残り半数の人には「ライブハウス」という題を与えて読んでもらうという実験をしています。文章を読んでもらった後で、「彼が取り出したものは何ですか？」と質問します。さあ大学生はどう答えたでしょうか。文章に忠実にそのまま抜き出して答えるならば「X」とか「ゆ

40

るやかな曲線としっかり系の張られた道具」が答になるわけです。しかしそのように解答した人は少なく、「ウィンブルドン」という題で読んだ人の77%はラケット、「ライブハウス」という題で読んだ人の60%はギターと答えました。え

45

みなさんの中でも「ウィンブルドン」「ライブハウス」という題をいわなくても、部活でテニスをやっている人は、「これ」はラケットだとすぐに思ったかもしれませんし、バンドを組んで演奏をしている人はギターなど弦のある楽器を考えたかもしれません。私の友人は、サーカスで棒をもって綱渡りする人のことかと思ったと話してくれました。

50

ただし、(C)「ウィンブルドン」といわれても、それが全英テニス選手権大会の開催で有名なロンドン南部の地名であることを知らない人には、この題はまったく役に立たないでしょう。まず第一に、ウィンブルドンやライブハウスが何で、どのような場所やできごとをさすのかについて知識をもっていること、そして第二にそ

55

の人が、そのもっている知識を読むときに使うことができること、この二つの条件がそろって初めて、文章を理解できるわけです。ライブハウスについて知識をもっているいても、題として与えられないとその知識を使うことができません。ですから、何をいつているのかを理解できないわけです。

60

「文章を読む」とは、「文字を見ることを通して情報が頭の中に流れ込み、一方的に入ってくること」と思っている人がいるかもしれません。しかし、この例からもわかるように、そうではありません。

④

入ってくる情報について自分がすでにもっている知識を使いながら、

65

重要な情報とそうでない情報を取捨選択し、情報ともっている知識を関連させて文章を理解しています。双方向の流れ、もっている知識と入ってくる情報のやりとりによって、書かれている文章の世界を読み手の心の中につくり上げていく過程といえます。ですから、読み手側が手もちの知識をどのように使うことができるかが重要なのです。いくら知識をもっているでも、どの知識を使ったらよいのかがわかるようになっていなければ使えません。知識が使えるためには、入ってくる情報が何について述べたものがわからなければならぬわけです。テレビや映画を途中から観ても何の番組かがわからない、授業に遅れて入っていくと何をやっているのかしばらくよくわからない、という経験をしたことはありませんか。途中

75

から観たり参加したりしても、よくわからなかった情報は、その場
だけではなく後でも使えるようにはなりません。これも今の話と似
た現象です。

自分のもっている知識を使うことによって新しいことが理解でき

80

ますし、理解し学んだ情報を今度は頭の中のどこにしまっておくか
もその知識によって決まってくるのです。知識というと、「知識の
つめ込み」とか、「ものしり」という形で、(Y) でかちのイ
メージが浮かぶかもしれません。あるいはまた、知識があることが
合理的で「冷たい」というイメージをもつ人もいるでしょう。今の
日本では「知識」という言葉が必ずしも良い響きをもっていないか
もしれません。しかし、^⑤読むことも学ぶことも、新しく入ってくる

85

情報だけではなく、あらかじめもっている知識(既有知識)のおか
げでできているのです。文書を読み、書き手や書かれていることに
共感したり、血の通った感覚やあたたかな感情を登場人物に対してもつ
たりするのを支えているのも、既有知識なのです。

90

図書館をイメージしてみてください。新しい本が入ってきたとき
にそれをどの棚たなにしまったらよいかかわからないと、せっかくの本
も迷子まいごになってしまいます。また新しく入ってきた本を棚のどこに
並べたらよいかを考えるには、前から並んでいる本が棚のどこにど
のように並んでいるかを知る必要があります。そしてそのルールで

95

並べられた本は、今度は使うときにすぐに取り出すことができるわ
けです。

書くことには、つくり出していくといった積極的な印象があるの
に対し、読むことには入ってくるという受身の印象があるかもしれ
ませんね。でも、読み手が意識していなくても、既有知識を積極的
に使うことによって、あらたな理解が生まれているのです。

(秋田喜代美『読む心・書く心 文章の心理学入門』)

100

問一 —— 線①の()に入る、打ち消しの意味を持つ漢字一字
を答えなさい。

問二 (A) (B) (C) にあてはまる語を次からそれぞれ選び、
記号で答えなさい。

ア、あえて イ、たとえ ウ、なおさら エ、おそらく

問三——線②とありますが、筆者はどのような文章ならわかり

やすいと述べていますか。次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア、読めない字や知らない言葉が入っていない文章。

イ、何を話題にした文章であるかが明らかである文章。

ウ、一つ一つの字が大きく、短い文で書かれている文章。

エ、身近な話題が書かれていて、場面を想像しやすい文章。

問四——線③とありますが、「推論できた人」とはここでは具

体的にどのようなことができた人のことですか。四十字以内で答えなさい。

問五 X にあてはまる言葉を十二字で答えなさい。

問六 この文章には次の一文がぬけています。この一文を入れる場

所として最も適切な場所を あ く え から選び、

記号で答えなさい。

これは、同じ文章でも、読み手がどんな知識を使って読むかによって文章の理解の仕方が違ってくることを示しています。

問七——線④とありますが、冒頭の……線に囲まれた文章で

「彼」が取り出したものをテニスのラケットだと理解する場

合、(1)「入ってくる情報」と(2)「自分がすでもっている知

識」とは何の何を表しますか。本文中の言葉を用いて答え

なさい。

問八 (Y) に入る漢字一字を書きなさい。

問九——線⑤とありますが、この「既有知識」はどのような役

割を果たしていますか。あてはまらないものを次から一つ選

び、記号で答えなさい。

ア、既有知識を生かすことで、新しく入ってきた情報を理解す

ることができ

イ、既有知識と比較することで、書かれた内容に対し冷静で合

理的な判断をすることができる。

ウ、既有知識を持つことで、作者への共感や登場人物に対する

親しい思いを持つ深い読書ができる。

エ、整理された既有知識に組み込むことで、新しい情報を次回

に生かせる情報にすることができる。

問十 本文は文章を理解する上での知識の重要性について述べています。筆者の考えをふまえて、ある特定の知識を一つ例に挙げ、それを持っていることで他の場面でのように生かせるかを具体的に書きなさい。

〔三〕 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。（設問の都合上、

本文から改変・省略した部分があります。）

*字数指定のある問題については、句読点・記号も字数に数えます。

※ つよしは俺のスタンドを立て、石の床に固定すると、靴をぬいで小上がりに上がった。

「初めてのご利用の時はお名前を伺う決まりになっております」と店主は言った。つよしは畳を見ながら言った。

「笹本つよしです」

「笹本つよしさん、あずかり賃は一日百円です。何日おあずかりしますか」

つよしは少し考えて「三日」と言った。それから顔を上げ、「ここ、朝は何時からやってますか」と尋ねた。

「七時から開店しています」

「三日後、朝の七時半に取りにきます」

「わかりました。もし三日を過ぎても取りにいらっしやらない場合は、うちのものになりますか」

「^①ぼく、ゼッタイ来ます」

そう言って、つよしは三百円を置いて出て行った。

三百円も俺も置いていった。

その晩、俺は店主の手で店の奥おくにしまわれた。奥には部屋へやがあるようだが、そこではなくて、奥のどんづまりに勝手口があって、その手前の土間に置かれた。そこは暗い闇やみで、なにも見えない。店主は暗さを感じないようで、器用にてきぱきと体を動かす。だいぶたつて気がついたけど、店主は目が見えないようだ。

店主の手は自転車屋の親父おぢの手とはちがう。皮膚ひふが薄くすべすべして、清らかな感じだ。親父はいつも油っぽい匂においをさせて、手ががさがさだった。それでも親父の手には何かがあった。店主の手にはそれとは違うものを感じる。

その違いがなんだかよくわからないまま、その夜は静かに過ぎた。それから俺は二日間、奥でただ突つっ立たっていた。自転車屋でぶらさがっているより、見えるものは少ないが、聞こえる音で、この店のことがだいぶわかった。

ここはあずかりやという商売をしており、人はいろんなものをここに持ち込む。店主はそれを金をとってあずかる。店主は耳がいいらしく、客の声を覚えており、まるで目が見えるようにすみやかに対応する。

あずかりやさん。

この店にはべたべたした熱い感情もどろどろした黒い感情もない。なにせ店主は自転車屋の親父のように客に

1

しゃべらない。

あずけたければあずかりますよという感じだ。かといってそれはなげやりという種類のものではなく、そこにあるのは静かな誠実。そんなところだ。

そう、店主の手から感じたのはそれだ。誠実はなんていうのかな、ひんやりとしてひらべったい感じがする。自転車屋の親父にあったものは、もっといびつで

2

していた。

〈中略〉

三日目の朝七時半びつたり、つよしはやって来た。

驚おどろいたことに、つよしは

3

音をさせてやって来た。手に

はさびた自転車を引いている。センスのないあずき色で、古い型の自転車だ。

「夕方まであずかってください」

つよしは百円を置き、あずき色の自転車を店主にあずけると、かわりにぴかぴかの俺を引いて店を出た。

なにがなんだかわからないまま、俺は商店街を引かれて行った。

つよしは三日前と違う制服を着ていた。少しサイズが大きいみたいだ。商店街を抜けると、つよしは俺にまたがり、大通りを走った。

俺は走った。つよしと走った。やはり風を感じた。

三十分ほど走ると、つよしと同じ制服を着た若者が
4
いる場所に着いた。これがうわさの高校ってやつだな。一流とかいう
やつだ。つよしのとうさんが自慢げに語っていた。

みんな賢そうな顔でぴかぴかの自転車に乗っている。しかし俺
ほどの自転車はほかにない。だって自転車たちはみな俺とすれ違
うと「ミスター・クリステイじゃないか！」と感嘆のためいきをもら
した。自転車界で俺はスターだからな。

俺は精一杯光り輝き、すばらしさを見せつけた。

「どうだ！ って感じさ。」

〈中略〉

その後、つよしは月曜から金曜日、朝、俺を取りに来て高校へ行
き、学校が終わると帰りにあずかりやにあずけた。必ずあずき色を
引いてきて、あずき色を持ち帰った。

土曜と日曜は別モノだ。つよしはどちらかの昼間に手ぶらでやっ
てきて、いつもと違う道を走った。

俺はつよしと一緒にでっかいビルを見たし、でっかいタワーも見
た。タワーはすごい。天に突き刺さっていて、空が痛そうだ。

木が多い公園に行ったときは、葉っぱの匂いを知った。

つよしは俺に世の中を見せてくれる。俺は自転車屋の天井にぶ

ら下がっていた頃より、いろんなものを見、知ることができたが、

一番見たいものは見せてもらえなかった。それはつよしの X だ。

ある日曜の夕方のこと。つよしはその日俺と山に登り、そうとう
くたびれていたようで、あずかりやに入ると、店主にこう言った。

「いちいちお金をやりとりするのは面倒なので、一カ月分払ってお
いてもいいですか」

「もちろんかまいませんが」と店主は言い、そのあと遠慮がちにこ
う言った。

「駅前の駐輪場で登録手続きをすれば、一カ月四百円で済みますよ」
つよしはしばらく黙っていたが、「自転車をここにあずけては迷

惑ですか」と尋ねた。

店主は笑顔で言った。

「こちらはかまいません。ただ、笹本さんは学生さんなので、この
まま一日百円をいただき続けるのもどうかと思ひまして」

店主は目が見えないが、つよしが学生だと言ひ当てた。声とか、
来る時間帯とか、さまざまな情報から推測したのだろう。

つよしは「駅前だとおかあさんが気付くので」と言った。

店主は座布団を差し出し、「もしよかったらご相談にのりますよ」

と言った。

「お話を聞いてもけして口外しません。話だけ話してみるとい
のはどうですか」

そう言われて、つよしはしばらくもじもじしていたが、やがて靴
をぬいで小上がりに上がった。

店主はしずかに座^{すわ}っているだけで、何かを聞き出そうとする気配
はない。俺は自転車屋の親父を思い出した。客は、ほうっておくと
勝手にしゃべり出す。^③つよしも例外ではなかった。

「お小遣^{こづか}いが足らなくなってきたから、もうそろそろおしまいにし
ないといけないって思うんです」

店主はうなずいた。

^④「高校に通うのに自転車がなきゃなんです。おかあさんは、一生懸^{いっしょうけん}
命^{めい}自転車を探してくれて、あのあずき色の」と言いかけて、つよし
ははっとして、言葉を選び、言い直した。

「古い自転車をアパ^とパートのお隣^{となり}の遠藤^{えんどう}さんから譲^{ゆず}ってもらったん
です。遠藤さんはもう歳^とで自転車に乗れないから、捨てようと思っ
てた、って言ってました」

「遠藤さんから譲^{ゆず}っていただいた自転車なんですわね」

「はい。ぼくのおかあさんはやさしい人です。お金があれば買って
くれるんですけど、朝早くからスパー^たで働いて、夜は弁当屋で働
いて、でも自転車は買えないんです。ぼくの学費^{がくひ}を貯^{たくわ}めているんで

115

す。大学へ行かせるんだってはりきっています」

「自転車は高いですからね」

「それで、遠藤さんから譲^{ゆず}ってもらった自転車をぼくにくれたんで
すけど」

つよしはそこで黙った。

すると店主が言った。

「遠藤さんの自転車はしっかりした作りですが、若い人が乗る自転
車と違いますから、通学に利用するのは少し恥^はずかしいですよね」

つよしははっとした。俺もはっとした。店主は誠実だが、頭がや
わらかく、この手の話も通じるのだと思い、俺はなんだかほっとし
たし、^⑤つよしもほっとしたようだ。

つよしの口は油をさしたように、がぜんすべらかになった。

「おとうさんに入^い学祝^{がくしゆ}いに何が欲^ほしいって聞かれたとき、ぼく、自
転車^{じてんしゃ}って言^いっちゃったんです。せっかくおかあさんが用意^{ようい}してくれ
たのに」

つよしは正座した太ももの上にげんこつを握^{にぎ}っていたんだけど、

それをことさら強^{つよ}くにぎり、「朝、おかあさんがくれた自転車^{じてんしゃ}で家
からここまで来て、ここでおとうさんが買ってくれた自転車^{じてんしゃ}に乗り
換^かえて、学校^{がっこう}へ行^いってるんです」と言い、吐^はき捨^すてるようにこう付
け加えた。

135

105

100

125

120

110

130

「ぼく、おかあさんを騙だましてる」

「騙だますだなんて、おかあさんを思おもったのことでしょ？ それにかっ
こいい自転車に乗りのりたいのは、あなたくらいねんれいの年齢ねんれいでは当然たうぜんでしょう」

つよしは「普通ふつうの家族かぞだったらすうかもしれません」と言った。

「おとうさんとおかあさんはぼくが幼稚園ようちえんに通とっているところに別わかれ
て、ぼくはそれからずっとおかあさんと暮くらしています。おとうさ
んは今別のひとと暮くらしています」

「そうなんですか」

「おとうさんはときたまぼくに会あって、ものを買かってくれようとす
るんだけど、ぼくは今まで断ことわっていました」

「なぜですか」

「おかあさんがぼくを一生懸命いっせいけんめい育てているからです」

「それだとしておとうさんからものをもらってはいけないんで
すか」

⑥ 「おかあさんがぼくに一生懸命いっせいけんめいで、おとうさんはぼくに一生懸命いっせいけんめいじゃ
ない。なのにお金かねを持もっているから、ぼくを簡単かんぱんに幸さいせにできるん
です」

そのときのれんが揺ゆれた。つよしを励はげますように、いい風かぜが入いっ
てきたのだけど、つよしの表情へいしは硬かたいまままだ。

「おかあさんは頭あたまをいっばい下くだげて、何日なんにちもかけて古い自転車じゆうせんを手

155

150

145

140

に入いれました。おとうさんはカードカードを出だすだけで、クリステイクリステイを手
に入いれました。かかった時間じかんはほんの数分すうぶんでした。なのにぼくはク
リステイクリステイが好きなんです」

すると店主たぬしは言った。

「お金を手てに入れるのも簡単かんぱんなことではないですよ。おとうさんも
あなたに一生懸命いっせいけんめいなんだと思いますよ」

⑦ つよしの頬ほはかあつと赤あかくなった。そういうふうふうに考かんえたことが
なかつたようだ。俺おれは自転車屋じゆうせんやで過かしたから、金かねを稼かせぐたいへん
さを知しっている。しかしつよしはどうさんと一緒いっしょに暮くらしていない
から、そのたいへんさを知らないのかもしれない。かあさんのたい
へんさだけが目めに入るいるのかもしれない。

店主たぬしはやさしくこう言った。

「おかあさんに本当ほんとうのことを話わせば、喜よろこんでくれると思おもいますよ。
だいじな息子むすこがかっこいい自転車じゆうせんに乗のっている。それを喜よろこばない母はは
親おやはいないと思おもいます」

するとつよしは大きな声こゑを出だした。

「もちろんそうです！ きつとおかあさんはクリステイクリステイを喜よろこんでく
れる」

それから小さな声こゑで言った。

「でもぼくは」

175

170

165

160

しずかな時間が流れた。つよしは自分の気持ちを探しているようだった。やがてつよしはそれを見つけた。

「ぼくが嫌なんです」

つよしは立ち上がり、「明日また来ます」と言っ、あずき色の自転車を引いて出て行った。

店主は口答えをされたのに、 笑顔を浮かべていて、つよしの発言に満足しているようだ。

俺？

俺はなにがなんだかようわからん。

世の中は複雑すぎる。

ただ、これは想像なんだけど、つよしはあずき色の自転車を

(A) んじゃないかな。けれど (B) から、いらついでいる。そういうことなんじゃないか。たぶん、そう。

そこまで想像すると、俺の心はしーんとした。

だってこれって、つよしとあずき色の問題であって、俺ってあんまし関係ないんじゃないかと思えて来たんだ。

ふーっと 気持ちになった。すると店主の誠実な手が俺

に触れた。 ひらべったい手が俺を奥へと運び、タイヤに

付いた泥を雑巾で拭き取り始めた。慣れない手付きだから、くすぐつ

たいし、完璧には綺麗にならない。けど、俺の 心はだい

195

190

185

180

ぶ落ち着いた。

誠実はありがたいと、このときは思った。

(大山淳子 『あずかりやさん』)

※小上がり……玄関内の、土間から一段高くなった小さな座敷

問一 —— 線①を漢字に直すとどれが正しいですか。次から一つ

選び、記号で答えなさい。

ア、絶待 イ、絶対 ウ、絶大 エ、絶体

問二 —— 線②とありますが、店主の手に感じたものとは何です

か。本文中から五字でぬき出しなさい。

問三 に入る言葉を次からそれぞれ選び、記

号で答えなさい。

ア、ぶるぶる イ、ぎいぎい ウ、しずしず

エ、うようよ オ、くどくど カ、ごつごつ

問四 に入る言葉を次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア、田舎 イ、学校 ウ、家 エ、友人 オ、財布

問五 ——— 線③とありますが、つよしのどのような行動を指して「例

外ではなかった」と言っているのですか。簡潔に答えなさい。

問八 ——— 線⑥とありますが、それを具体的に説明した次の文章

の（ 1 ）、（ 2 ）に入る内容を、それぞれ指定された
字数で答えなさい。

問六 ——— 線④に「つよしははっとして、言葉を選び、言い直し

た。」とありますが、「あのあずき色の」の後に、何と言おう
として、その言葉をやめ、言い直したと思われませんか。「あ
ずき色の」に続く言葉を考えて、答えなさい。

おかあさんは（ 1 ※十五字以内 ）ことに一生懸命

であるのに対し、おとうさんは別のひとと暮らしていてぼくと
はたまに会う程度である。それなのにおとうさんはお金を持っ
ているので（ 2 ※二十字以内 ）ぼくを幸せにできて
しまう。

問七 ——— 線⑤とありますが、つよしはある気持ちを店主に理解

してもらえたために「ほっとした」と思われます。それはつ
よしのどのような気持ちですか。四十字以内で答えなさい。

問九 ——— 線⑦とありますが、この時のつよしの様子を説明した

ものとして、最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア、おとうさんはぼくに一生懸命ではないのに、店主が逆のこ
とを言うので、怒り^{いか}で頭に血が上った。

イ、おとうさんもおかあさんも結局はぼくに一生懸命なのだ
わかって一気に照れくさい気持ち^いがわき起こってきた。

ウ、おとうさんがカードを出すだけで手に入れたクリステイを
大好きだと打ち明けてしまい、後悔^{こうかい}した。

エ、おとうさんもぼくに一生懸命なのだ^はと店主に言われて初め
て気づかされ、今までの自分を考えを恥^はずかしく思った。

問十

a

く

d

に入る言葉を次からそれぞれ選び、記

号で答えなさい。

ア、ひんやりとした イ、ざわついた

ウ、さわやかな エ、さびしい

問十一 ———— 線⑧の（A）、（B）に入る言葉の組み合わせ

せとして最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

A

B

ア、愛しがっている | うまく愛せない

イ、うとましく思っている | うまく言い表せない

ウ、もてあましている | うまく処分できない

エ、大事にしようとしている | うまく乗りこなせない